



チャリティーショップ

2000年4月17日

セカンドハンド通信 No.20

本部事務局 〒760-0052 香川県高松市瓦町2-6-13

TEL&FAX 087-861-9928 発行責任者・新田恭子

E-mail: 2nd-hand@eskimo.com http://www.eskimo.com/~2nd-hand/



高松店・本部事務局が瓦町に移転!!

これまで高松市田町の商店街にあったセカンドハンドが、4月1日から高松市瓦町2丁目に移転しました。無料でお借りしていた田町の空き店舗の買い手が見つかり、急な移転となりましたが、瓦町の店舗も、(株)ビーバーホームズさんのご厚意で、無料で貸していただけることになりました。

新店舗・本部事務局は、コトデンそごうの西側の路地に面した木造瓦葺き、二階建ての建物です。商店街とは少し離れましたが、琴電瓦町駅から歩いて1分という街の中心地。店舗面積も、1階と2階で延べ約50㎡あります。ただ、長い間空き家だっただけに、改装作業にはかなり手間取りました。しかし、電気工事、看板、ペンキ塗りなど、本職の方々が無償でご協力して下さい、小学生や中・高校生のほか、本当にたくさんの方々が引越し&改装作業を手伝って下さったお蔭で、無事オープンすることができました。

セカンドハンドは1994年5月、南新町でスタートしました。しかし、南新町の店舗は当初から、3カ月限定の無料提供。活動を続けるには、新たな「無料店舗」が必要でした。そんな折、富士店舗さんから、「売れるまでなら無料でどうぞ」と申し出がありました。

とはいえ、今回の瓦町店と同じように傷みがひどく、最初は「手が着けられない」状態でした。それでも多くのボランティアに助けられ、猛暑の中、汗まみれ、ペンキまみれで強行した改装作業は、忘れられない思い出です。そんなセカンドハンドの「よちよち歩き」を見守ってきた田町のお店とのお別れは名残惜しい限りですが、新店舗で心機一転、さらに国際支援の輪を広げていきたいと思っています。どうか、今後とも応援よろしくをお願いします。



最初はこんな状態でした

改装前



改装後



瓦町駅から徒歩1分



こんなにきれいになりました。
みんなの力ってすごい!!

床板を張ったり
棚を作ったりと、
大忙しでした



引越作業も手作業で

●改装にかかった費用●

・NTT電話工事費	9,765円
・カギ代	4,500円
計	14,265円

これだけで済んじゃいました!!
みなさん、本当にありがとうございました。

- CONTENTS -

- ☆高松店・本部事務局が瓦町に移転!!・1p
- ☆特集
セカンドハンド スタディツアー・2~5p

- ☆法人化に向けて.....6p
- ☆支部だより.....7p
- ☆お知らせ.....8p



「セカンドハンド」は皆様から無料提供していただいた衣類や生活用品を販売し、その収益金すべてを援助にあてるチャリティーショップです。主にカンボジアでの学校建設や識字教育など、教育支援をおこなっています。また、カンボジアの地雷による障害者など、経済的、社会的に立場の弱い人たちが作る商品を現地のNGOから輸入し、販売することで、自立を支援しています。店舗や倉庫は無料でお借りして、お店番などの活動は無償で働くボランティアスタッフが支えています。

1週間に1度、2時間程度で結構です。あなたもボランティアで世界の誰かのために役立ってみませんか?



セカンドハンド スタディーツアー

日程:2000年2月14日～2月24日(11日間)
参加者:全国から7才～60才の12名
参加費:16万円(全額自己負担)



支援をして下さる皆様へ

いつもご支援、ご協力ありがとうございます。セカンドハンドでは毎年、年に1回～2回、自分たちの支援がどのように活かされているのかを確認すると同時に、現地のNGO団体を訪問し、交流を深める旅を続けています。

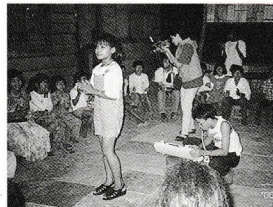
今回も皆さんの支援の成果を確認してきました。皆さんの様々な形での支援は、確実に支援を必要とする方々に届いています。確実に届く、顔の見える援助を確認し、続けていくためにも、スタディーツアーは大切なものだ実感しています。

内戦から立ち直りかけたカンボジアで必死に生きる人たちがいます。あなたの第2の手(セカンドハンド)での支援を、今後ともよろしくお願いします。
(事務局・深田)

●ラッチャナ・ハンディクラフト 訪問(2月17・18日)



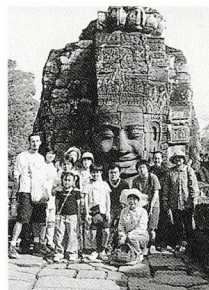
感謝状を手に記念撮影



「ラビヤーヤー、ラビヤー」みんなで歌いました。子どもが伴奏しているピアノは、昨年のスタディーツアーで持参したものです

●ホームランド孤児院
訪問(2月17・18日)

バイヨン遺跡にて



●アンコール遺跡群見学
(2月19・20・21日)

●ワットタン訪問(2月22・23日)



以前セカンドハンドが贈ったミシンが大活躍

●CWDA訪問(2月22日)



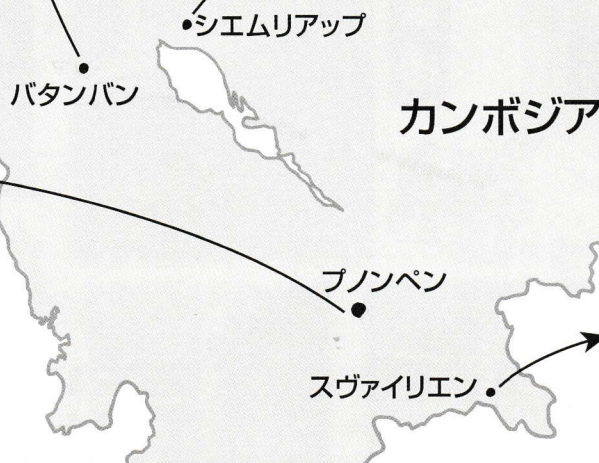
CWDA代表キン・セレイ・バルさんとの会食

●SVA図書館活動見学(2月23日)

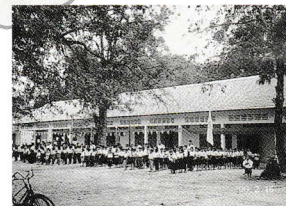


絵本の読み聞かせの様子

●トゥルースレイン博物館見学 (2月22日)



●12月2日小学校 開校式(2月16日)



新校舎と開校式を待つ子どもたち



セカンドハンドからの挨拶



生き生きとした瞳が素敵でした



校舎の前で子どもたちも一緒に

12月2日小学校開校式

プノンペンからバスに揺られること約4時間半。今回建設支援をした12月2日小学校に到着!!バスから降りるなり全校生徒や村の人たち千人ほどの大歓迎を受け、拍手の中、校庭に入りました。校庭の中にひときり目立つクリーム色の校舎...それがセカンドハンドを支援して下さる方皆さんの思いの詰まった校舎です。

開校式は読経から始まり、校長先生から建設報告、スヴァイリエン州副知事の挨拶と続きました。この席上、セカンドハンドは感謝状と4個目となる国家復興功労メダルを頂きました。

校舎の前でテーブルカットをした後、新しい校舎をまわりました。1つ1つの教室で生徒たちが「ありがとう」「またきてください」と日本語で挨拶してくれました。教室に座る子どもたちも窓の外から押し合いながらのぞく子どもたちも、生き生きとした瞳がとても印象的でした。

SECOND HAND STUDY TOUR

足もとをみつめる目

木村理恵
(福岡支部スタッフ)

『ボランティアは、しない!』と誘いを断った2年前。ボランティアという言葉にこだわってセカンドハンドに踏み込むことができませんでした。

しかし、紆余曲折があり参加したスタディーツアー。いつまでも興奮さめず、困っています。

ハワイに行くというと、ほとんどの人が「いいなあ」と言うけれど、カンボジアというと「なぜ?」と聞きます。小学生の息子を学校を欠席させて連れて行くとか付け加えると「止めたほうがいい」と反対する声もありました。そんな旅に敢えて参加した美りは、かけがえのないものになりました。

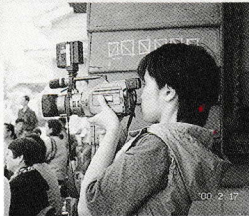
こんなに情報の多い社会の中で正しいことを伝えているものは、どれだけあるのでしょうか?身の回りがどれだけ便利に豊かになったようでも自分自身の本当のものは自分自身で見極めるしかありません。私にとっての真実は、遠い国のことではなく、私自身の足もとでした。誤解を理解していくこと。そして、今何ができるのか、具体的にどうするのか、どう歩いていくのかということです。

舗装されていないでこぼこ道。とにかく暑い日差し、アンコールワットの朝日、植物に侵食される遺跡、物売りの声。バイクの4人乗り、子供達の明るい瞳、おいしい料理、現地NGOの人たち...

思い出は身に残り、音は消えていきます。しかしセカンドハンドにはこれからつながっていく確かなものがあります。人と人とのネットワークであり、行動していく力です。

きっと広がっていく私達の輪を期待して、今後のことを考えます。小さな種が大きく成長していくために特別なことではない活動をしていきたいと思います。

このツアーに参加できたこと感謝して。



ビデオ担当、お疲れさまでした!



開校式に参加する子どもたち

楽しかったカンボジア

木村一樹
(福岡市・小学3年)

2/13 高松のセカンドハンドでシバナさんのテレビを見た。ぼくは思った。「ああカンボジアは地雷の国だと思ったけどラッチャナってお店、すごいなあ。いつかラッチャナで服を作ってみたいなあ。」ラッチャナは17日に行くんだもんな。

2/16 12月2日小学校に着く。大勢の子供たちがお迎えをしてくれた。開校式で賞状をもらう。ぼくは教室でリコーダーを吹く。

2/17 テレビで見たシバナさんに会う。ラッチャナで服を作ってもらった。

2/22 虐殺博物館に行く。こわかった。

2/23 フンペンからバンコクに行く。そのとき...ぼくはカンボジアさよなら、と言った。

またカンボジアに行きたい。



感謝状を手に記念撮影



ちやうと緊張しました!

確認する旅

11日間短かったが、子供達の顔を見たり、NGO担当者の説明を聞いたりして国の様子が少しずつ分かって来た。

現在の激しい国同士の競争で、笑顔のカンボジアの子供や障害者や女性などはとても弱い立場に置かれているが、私達は日本で彼女たちのために何か手助けができる。日本に住んでいるフランス人として、先進国の開発途上国に対する援助にもっと考えるべき部分があるのではないかと強く感じた。



エラリー・ジャン・クリストフ
(香川県国際交流員)



ホームランド孤児院で話を聞く

セカンドハンドの活動への参加の必要性が、このスタディーツアーで実感として分かった。私達がセカンドハンドの店で一時間でもボランティアをすることによって、わずかでもカンボジアへ援助することができる。現地に行き、自分の目で見てそれを再認識できた。皆により良い活動をしてもらうためにぜひ一度自分の目で現地を見てほしいと願っている。

3

カンボジアスタディーツアーに行つて



スヴァイリエンの村の人と一緒に

中澤 力
(千葉県・会社員)

一番印象に残ったのは、孤児院に行ったときのことだ。ここにいる子供は、母親がタイで売春をしていて子育てを放棄したり、子供ギャングのリーダーをしていたストリートチルドレンだ。我々が車で着くとずっとまっていたかのように拍手と明るい笑顔で迎えてくれた。手と足がいっしょに動いてしまうようなかんじで入っていったのを覚えている。

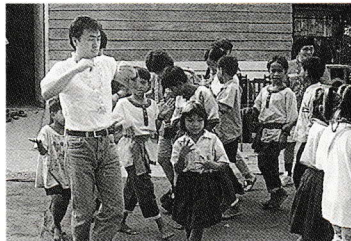
カンボジアの踊りが始まった。日本の盆踊りとかディスコしか知らないものだから、音楽といい、かっこうといい、手のひらを逆にしならせる動きといい、足の運び方といい、すべて新鮮なものだった。

この国が貧しいと言えばその一言で終わってしまうが、どうだろうか。ありあまっている日本の数々の商品、電化製品、服、食べ物、どれをとっても豊富にある。いや豊かすぎてそれがあたりまえになっている。この使いすが当たり前になっている日本...、みんなはどう考えよう。

そして、人間の強さっていったい何だろう。弱いものを助ける。当たり前のことのように思うがどうだろうか。人に役立つことをしたい。押しつけでなく見返りを求めずに。いろんな壁はあるだろうが、一番必要なのは熱いハートだと思ふ。

21世紀は世界中の人と人がいっぱい関わった方がいいな。理想ばかり言っているが、それを実行しているセカンドハンドはすごいと思う。

毎日が新鮮で心を豊かにしてくれたスタディーツアーは自分自身を一步踏み出させてくれたような気がした。



カンボジアの踊りは新鮮でした!

少年の「ありがとう」

原 泰博(東京都・自営業)

海外へは初めてののに、東京から熱海ぐらいく行く気持ちでした。自分にできることがあるのか、現地でみてみたい。そんな思いでした。



生徒の家庭訪問先で

ツアーの中で印象に残っているのはピートゥヌー小学校での開校式です。児童や州知事、あわせて千人近くが出席してくれました。日本を出発する前日の事前研修で決めた私の担当はカメラマンでした。カメラを持っている私に少し近づいては去っていく9才くらいの男の子がいました。その彼はいつのまにか斜め前くらいに近づき立ちどまりました。彼は「ありがとう」と



たくさんの生徒たちが迎えてくれました

と言って走り去りました。彼と一対一でかわした言葉は「ありがとう」その一言だけでした。自分の中にあった難しい言葉はいっさい消えて彼の言葉と真剣な瞳だけが体いっぱいひろがりました。彼はどんな気持ちでそう言ったのでしょうか。想像して下さい。これは皆さんと共有できる体験です。

日本ではすごく小さなお店でも、カンボジアにつくところにはものすごく価値のある物・小学校になっています。ボランティアということばの中にある難しいことや知らないことを全部消しちゃってただ単純に想うと、そこに残っているのは「楽しいこと・子供達の未来」があります。

瞳の中の輝き



水谷正子
(高松市・飲食業経営)

大勢の人たちが大切に、そして活躍しているのを現実に見ることができ、感無量でした。一人でなく、大勢の力が集まれば、どんなことでもきつと叶うことを教えられました。

どこへ行っても、私の目には、子供が主役でした。国は違っても、子供の心は共通するものがいっぱいありました。瞳の中の輝きは、本当にいつまでも輝き続けてもらいたいし、それを手助けするのは、今の私たちなのではないだろうかと思います。カンボジアで知り合った人たちの幸せを心から願います。

セカンドハンドのスタッフの皆さん、本当にご苦労さまです。

こどもの権利

堀 侃子(高松保育園)



私なりにこれからも考え続けていきたいと思ったことは、人としての基本的権利(特にこども)でした。CAPプログラム(児童虐待防止プログラム)にもあるように、安心、自信、選ぶことのできる自由の3つが人としての基本的権利であり、

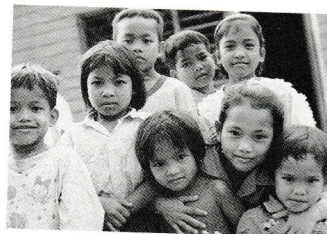
自分の権利を主張するばかりでなく、他の人の権利も侵してはならないというものです。

今回のツアーでも、物売りをさせられたり、顔全体にコブのようなものがあり物乞いをさせられたり、売春させられたなどの過酷な状況のストリートチルドレンなどに会いました。しかし、こどもの表情から日本とちがった豊かさをを感じる場面もいくつかありました。

バタンバンホームランド孤児院では、小さい子どもがだっこを求める姿に肉親と分かれての集団生活は日本と同様、愛やぬくもりを求めているように思いました。しかし、夜の交流会で幼児が音楽に合わせて踊りはじめた時、お姉さん、お兄さんが応援し見守る、子ども全体の雰囲気は家族として一丸となった暖かさで日本にはないものを感じました。

平和で豊かと言われる日本で人権が尊重されているかといえば、むしろものや情報が多すぎ、高齢少子化、児童虐待の急増や育児不安、自信喪失という中での選択の困難さが、安心して自信を持ち、選ぶ自由さを奪っているように思います。特にこどもの権利については大人が配慮しなければ尊重されない部分が多いので、日本も大人が意識をかえていく必要があるように思います。

他国への支援のあり方を考える時も、その国の歴史や文化、習慣、社会のしくみを大切にしながら、相手の立場に立って考え、援助していくことが大切だと思いました。



孤児院の子どもたち



汗だくになつてミシンのチェックをしていました!

開校式に参加して

三輪加奈
(盛岡市・高校3年)



孤児院の子と一緒

12月2日(ピートゥマー)小学校の贈呈式に参加するというのを、私はすごく軽く考えていました。実際に小学校に到着して、子供達たちの歓迎を受けて、みんなの前に座っていても、何となく事の重大性を理解していませんでした。学校が開校するというのが持つ意味を考える余裕がなかったせいかもしれません。

今、冷静になって考えてみると、一つの学校が開校するということは、カンボジアやスヴァイリエン州の人たちにとって、重要な意味を持っているということ、やっと実感できるようになりました。そして、その場に自分がいたということは、すごく素晴らしいことだったのだと思います。贈呈式でいただいた感謝状は、私の宝物になりそうです。それは、どんな小さな事でも、人の役に立つことをすれば、きっと誰かが感謝してくれているということを実に思い出すことができると思うからです。そうすれば、何が行動を起こそうとする時に、ちゅうちょせずにできると思います。



感謝状とクラマーをいただきました

たとえば小さな事でも、まったくやらないのでは大きな違いになるのだということを常に頭に置き、少しづつでも、自分ができる事を探し、行動していきたいです。

憧れのアンコールワット

吉田敏子(琴平町・主婦)

黒々とした緑の樹海の彼方にその独特の尖塔が見えてきた。ついにやってきたアンコールワット。言葉もなく立つ。

建築全体の整然とした構成の美しさ、内の細緻装飾紋様の美しさ。本当に来てよかった。あの悲惨な内戦をくぐり抜けてきたことを思えば、一層の感動をおぼえる。



どの遺跡も素晴らしいものでした

カンボジアの人々が物心両面において自分たちの力で自立できる日が来てこそ、アジアの真の隣人として共に歩むことができるのではないかと思います。その時こそ、私は今回の旅で交流できたすべてのカンボジアの人々の笑顔に逢いに行きたい。

カンボジアのともだち

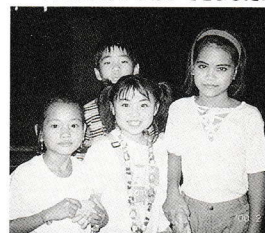
水谷ひとみ(高松市・小学1年)

わたしは、お母さんとセカンドハンドスタディーツアーにいました。このりょうこうは、ボランティアをするためのべんきょうりょうこうです。

わたしは、いくところいくところでもだちがいっぱいできました。セカンドハンドがたてたがっこうへいったら子どもたちがいっぱい、いました。おちやのかわりにやしのみをだしてくれたので、のんでみたらおいしかったです。きょうしつへはいると子どもたちが大きなこえでわたしたちに、おはようございます、ありがとう、またきてくださいといったので、すごいとおもいました。

おとうさんやおかあさんがいない子どもたちがいる、こじいへいきました。ここでもともだちができました。わたしはなかよくなった女の子たちに、もっていったふくをほとんどあげました。女の子たちは、すぐてみせてくれました。わたしは、なんとなくうれしくなりました。

シバナさんのいえには、わたしのおじいちゃんが日本でおしたミシンがありました。わたしがたのんだスカートは、そのミシンでつくりました。シバナさんとおわかれするときに、「ひとみさん、いっしょにわたしのいえへかえりませんか」といわれたけど、わたしは、じぶんのすきなところへかえりたかったので、ことわりました。さいごのおわかれのひ、シバナさんはいっぱい泣いていました。わたしはげったいに、またカンボジアへいきます。だから、すこしだけさみしかったです。



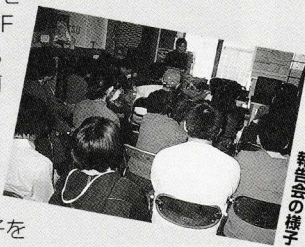
ともだちがいっぱいできました!



みんながだんごを食べてくれました

スタディーツアー報告会を行いました!

3月26、27日の2日間、セカンドハンド高松店の2Fで報告会を行いました。参加者からの報告の前にツアーのビデオ(編集:木村理恵さん、ナレーション:一樹くん)も流され、行くことができなかった人も現地の様子を思い浮かべながら話を聞くことができた好評でした。



報告会の様子

また、ゲストにカンボジアのラッチャナで洋裁指導をしている崔靖美さんを迎え、活動の現状をはじめ、社会的に立場の弱い女性が自立していくために技術を身につける場を提供するこの活動の大切さや技術向上の必要性についてお話していただきました。

報告会終了後には、女性の自立支援につながればと、カンボジア商品をいくつも買い求める姿がありました。



話をしてくれた崔靖美さん



NPO法人の申請を行いました

これまで任意団体として活動してきたセカンドハンドですが、このたび法人化することでスタッフ一同合意し、1月22日に設立総会を開催したのち、2月10日に香川県に申請書類を提出しました。

●設立趣旨

セカンドハンドは1994年、カンボジアの教育支援をとリサイクル活動の展開を目指して、ボランティアが組織する任意団体として発足しました。21世紀を目前に国内外の変革にあわせ、さらに活動を充実・発展させるために、このたび法人化を目指すことになりました。

日本の近隣国であるアジアの国々をはじめ、世界には開発途上とされている国がたくさんあります。そういった国々では人材を育成するための教育の整備が急務とされており、特に学校建設など施設整備、また識字教育をはじめとする教育事業への支援がのぞまれています。

セカンドハンドではこうしたニーズに応えて、教育支援事業を行うとともに、地雷や内戦により障害を負った人たちが、夫を亡くすなどして極貧の生活を強いられている女性たち、いわゆる社会的弱者への支援事業を行うことを目的としています。

また昨今、官民一体となって取り組む必要性が叫ばれている地球環境保全事業において、一番大切なことは一般の人々の認識の深まりとその取り組みにあると言われています。セカンドハンドは、一般市民が参加しやすいリサイクルシステムを確立し、普及させることも重要な目的としています。

このように国内外への弱者支援活動とリサイクルシステムの確立・普及のためにできるだけ多くの一般市民に向けて幅広い教育普及活動を行い、誰もが参加できるボランティア団体として世界に貢献するために特定非営利活動法人セカンドハンドを設立します。

??? なぜ法人化 ???

●活動拠点の問題

活動開始から今年5月で7年目を迎えるセカンドハンドは、これまでに5千万円以上の支援を行ってきました。昨年4月から本部事務局に専任スタッフ2名を迎え、より充実した支援活動を行えるよう体制を整えています。

店舗や倉庫、事務所など拠点となる場所はすべて無料でお借りしており、現在の場所も売れば出ていかななくてはならない状態です。今回、田町の店舗が売却されたことにより、店舗だけでなく、本部事務局も急な移動をしなければならず、事務機能なども一時停止せざるを得ませんでした。今回のこのような事態を迎え、スタッフ会議で話し合ったところ、倉庫と本部事務所だけは、いつ移動しなければならぬかわからないという状態でなく、いつでも各店舗や支部の活動をバックアップできる状態にしておく必要があるという結論に達し、自前の倉庫兼事務所を早急に確保、整備することで一致しました。そのため、NPO法人の認定を受ける必要が出てきました。

●NPO法人セカンドハンドの目的

開発途上国の児童教育、識字教育、職業教育などの教育支援を中心に国内外の弱者救済事業を行うとともに、国内におけるリサイクルシステムの確立と普及のための各種事業を行うことを通じて、国際理解、地球環境保全のための教育啓蒙に寄与することを目的とする。



設立総会の様子

●理事

新田恭子
岡田千恵子
福島(岸)康子
瀬崎美栄子

平木克典
平野キャサリン
淵川敬心
森谷芳子

●監事

明石安哲
鳥養恵子

SPECIAL THANKS ♥♥♥

<無料での店舗・倉庫提供>=富士店舗様(高松・田町店)、ファンク岡山様(岡山店)、弘陽商会様(倉庫)、GINCHO榎村様(高松・丸亀町店)、(株)ビーバーホームズ吉原様(高松・瓦町店)<出店協力>=高橋様(福岡)、<高松店改装協力>=(株)イシハラ様(ビニールテント)、デザイン工業(株)様(看板)、アドプランター様(看板)、(株)キヌガワ高松様(看板素材)、堀尾電気(株)様、荻田様、丸新塗装様(ペンキ)、(有)四国キーセンター様、みとよ青年会議所様、高松中央高校/大川東高校/勝賀中学校の皆さん、<改装協力・募金活動>=津田中学校の皆さん、<寄付>=凡喰旺様、家庭菓子ハンナ様、ソフトステーション様、(株)アサソーディケイ様、日本統計調査(株)様、古郡真奈様、佐藤富美子様、馬木奈々枝様、浅尾慶利様、森本様、桔梗谷英二様、鈴木一史/麻由子様、宮脇義憲様、島田雅行様、斉藤亜希子様、米澤様、<その他>=マルイ観光バス様、ヘンミクロージング様、香川マツダ様、佐川急便様、錦郵便局様、アイニチ(株)様

*本部事務所・高松店移転作業では、改装・運搬など本当に多くの方々に協力頂き、ありがとうございました。また、お手伝いいただいたスタッフの皆様、商品を提供して下さった支援者の皆様、本当にありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

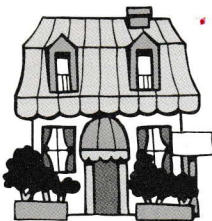


◆◆支部便り◆◆

岡山店

●店舗を探しています!

短期間でも結構です。賃料無料で場所を提供して下さい。
(経費は支払います)
商店街など人通りの多いところを希望します。



尚、店舗は岡山市の他、福岡市、川口市でも探しています。
空き店舗の情報や、チャリティーバザー会場を貸してあげる!などの情報がありましたら、是非本部、もしくは各支部までご一報ください。
◎短期間でも結構です。

福岡支部

●定例会&カンボジア・

スタディーツアー報告会

日 時:4月25日 10:30~

場 所:アクロス福岡(福岡市天神)3階、
こくさいひろば交流室A

参加費:無料

- ◎福岡支部では毎月1回、定例会を開催しています。
セカンドハンドの活動に興味のある方、ボランティアしてみたいという方、お気軽にご参加ください。
- ◎今回、福岡から母子でスタディーツアーに参加した木村さんが、カンボジアで見てきたこと、感じた事をビデオを使って報告します。
お問い合わせ先:TEL 070-5291-9446(木村)

川口支部

●定期的にフリーマーケットを開催しています。

仕分けや値段つけなどの準備をお手伝いして下さるボランティアを募集中!
楽しいですよ!!一緒に活動しましょう!

●次回フリーマーケット

日 時:5月14日(日) 10:00~

場 所:芝スポーツセンター内

連絡先:TEL 090-8331-4503(早船)



川口支部 フリーマーケット(川口リリア西口公園/3月19日)

支部を募集中!

支部活動をやってみようというグループを募集しています。
詳しくは本部までお問い合わせください。

カンボジア・スタディーツアー参加者募集!

《(財)三菱銀行国際財団助成事業》

今年は8月にもスタディーツアーを開催します。今回は昨年2月に続いて(財)三菱銀行国際財団から助成をいただき、開催します。
現地のNGOスタッフの協力を得て、ホームステイも予定しています。

スタディーツアー参加者募集要項

日 程:8月19日~8月30日まで(12日間・高松発着)

参 加 費:12万円

(ツアー、研修費など総費用24万円の半額は助成金を充当)

参加資格:35歳位までのセカンドハンドの活動に関心がある健康な方。

事前研修と10/13~15の報告会&写真展に参加できる人。

定 員:15名まで(応募者多数の場合は書類・面接選考)

申込方法:簡単な履歴書と「なぜスタディーツアーに参加したいのか」を400字程度にまとめ、6月末日までにセカンドハンド本部に提出してください。履歴書は市販のもので結構です。

締め切り:6月末日必着

事前研修:7月~出発までに3回開催予定

問合せ先:セカンドハンド本部 TEL 087-861-9928(担当:石井)

主な訪問先
(予定)

- ・プノンベン(虐殺博物館、NGO団体訪問など)
- ・スヴァイリエン州 ビートゥヌー小学校
- ・バタンバン州(ホームステイ&NGO訪問、孤児院)
- ・シエムリアップ州 アンコールワットなどの遺跡群見学



2000年2月スタディーツアーより